

ほうていこうけんせいどじれい 法定後見制度の事例

後見開始事例

- ① 本人の状況：統合失調症とうごうしつちようしやう
- ② 申立人：叔母おば
- ③ 成年後見人：司法書士せいねんこうけんじん しほうしょし
- ④ 成年後見監督人：公益社団法人成年後見センター・リーガルサポートせいねんこうけんかんとくじん こうえきしゃだんほうじん
- ⑤ 概要がいよう

本人は20年前に統合失調症を発症し、15年前から入院していますが、徐々に知的能力が低下しています。また、障害認定1級を受け障害年金から医療費を支出しています。本人の家族構成は母一人子一人でしたが、母が半年前に死亡したため、親族は母方の叔母がいるのみです。亡母が残した自宅やアパートを相続し、その管理を行う必要があるため、母方の叔母は後見開始の審判の申立てをしました。

家庭裁判所の審理を経て、本人について後見が開始されました。そして、母方の叔母は、遠方に居住していることから成年後見人になることは困難であり、主たる後見事務は、不動産の登記手続とその管理であることから、司法書士が成年後見人に選任され、併せて公益社団法人成年後見センター・リーガルサポートが成年後見監督人に選任されました。

保佐開始事例

- ① 本人の状況：中程度の認知症の症状ちゆうていど にんちしやう しやうじやう
- ② 申立人：長男ほさきにん
- ③ 保佐人：申立人ほさきにん
- ④ 概要がいよう

本人は1年前に夫を亡くしてから一人暮らしをしていました。以前から物忘れが見られましたが、最近症状が進み、買物の際に1万円札を出したか5千円札を出したか、わからなくなることが多くなり、日常生活に支障が出てきたため、長男家族と同居することになりました。隣県に住む長男は、本人が住んでいた自宅が老朽化しているため、この際自宅の土地、建物を売りたいと考えて、保佐開始の審判の申立てをし、併せて土地、建物を売却することについて代理権付与の審判の申立てをしました。

家庭裁判所の審理を経て、本人について保佐が開始され、長男が保佐人に選任されました。長男は、家庭裁判所から居住用不動産の処分についての許可の審判を受け、本人の自宅を売却する手続を進めました。

補助開始事例

- ① 本人の状況：軽度の認知症の症状けいど にんちしやう しやうじやう
- ② 申立人：長男ほしよにん
- ③ 補助人：申立人ほしよにん
- ④ 概要がいよう

本人は、最近お米を研がずに炊いてしまうなど、家事の失敗がみられるようになり、また、長男が日中仕事で留守の間に、訪問販売員から必要のない高額の商品を何枚も購入してしまいました。困った長男が家庭裁判所に補助開始の審判の申立てをし、併せて本人が10万円以上の商品を購入することについて同意権付与の審判の申立てをしました。

家庭裁判所の審理を経て、本人について補助が開始され、長男が補助人に選任されて同意権が与えられました。その結果、本人が長男に断りなく10万円以上の商品を購入してしまった場合には、長男がその契約を取り消すことができるようになりました。